

サイバーキャンパスコンソーシアム教育学グループ第3回委員会議事概要

I. 日時 平成22年11月1日午後3時～午後5時

II. 場所 私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者 難波委員、三尾委員、竹熊委員、(事務局) 森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1 資料の紹介

平成22年9月19日付けの読売新聞記事「デジタル時代の教育を考える」。

2 スケジュールの確認

事務局より、追加配布資料「平成22年度の学系別 FD/ICT 活用研究委員会・サイバーキャンパスコンソーシアム運営委員会の活動計画(案)」を用いて、次の点を確認できた。

- ・ 本日、持ち寄った授業案を調整し、サイバー委員に諮って意見をいただく。サイバー委員から意見をいただくのは、各部会それぞれのスケジュールでよい。教育学は少し先行しているので少し余裕がある(本日時点では)。本日の意見交換を受け、MLで最終稿の作成作業はできそうである。

3 検討事項(開発モデルの検討)

(1) 開発モデルの説明1

- ・ 特殊事情1: 大学として相対評価を導入しており、委員の科目では、通常授業以上の学習が求められているにも関わらず、Aランクの取得は難しいとの学生からの声もある。
- ・ 提案の資料には、ほかの科目にもいえる事柄が入っていると思われる。このモデル開発において、この科目の特筆すべき点のみにするのか、今回のように広く指摘することも含めていいのか。代案として、特に重要というものについて、アンダーラインをつけることで強調するという方法もある。
- ・ 1科目についてA4用紙2枚程度に収まるとよい。
- ・ ⑤学習環境の3以降は削除。
- ・ ①の3。Moodleの環境を⑤学習環境に以降する。
- ・ 「教育原論」を想定した②授業計画およびシナリオなどにする。

(2) 開発モデルの説明2

- ・ PPTによる説明。
- ・ 実体験が必要な科目であるが難しいので、ICTを用いた疑似体験を取り込んでいる。例: グループに留学生が1人はいるようにしている。
- ・ 疑似体験の例として、留学生を扱ったドキュメンタリーを視聴し、グループで意見交換

させる。

- ・ グループ活動の活性化（意見交換を促す）のために、グループ編成の初期段階で、中学生向け小学生教材を使った活動で楽しませる。
- ・ 課外活動をさせて、その証明として携帯等で写真を提出させる。
- ・ 知的理解は講義、心情的理解には実体験。ただ、実体験はできないので ICT を活用して疑似体験ではあるが、心情的理解に必要な活動をさせる。
- ・ ICT 活用での環境として必要なものは、プロジェクターの輝度の高いもの、放送資料の録画・編集機器が必要。
- ・ 前回議事録にもあるように、ライブの TV 会議なども組み込んだモデル（5年後）としてはどうか。

（3）開発モデルの説明 3

- ・ ③の内容をもう少し詳細に説明してほしい（事務局）
- ・ 注 デジタルカメラでも動画記録、Web カメラなどのできることを注記してはどうか。グループ活動、演習、というモデル提示の意図を書く。
- ・ グループ活動について、さまざまな意見交換がなされた。

（4）上記説明の中で確認された事項

- ・ 到達度として学生が身につける能力については、「教育学教育の学士力の考察」で [到達度] として記述した内容をさらに、詳細に記述することを目的とする。（事務局）
- ・ 「②授業計画およびシナリオ」は現実の科目のものでなくてよい。また、15週に分けている必要はない。（事務局）
- ・ 「到達度として学生が身につける能力」は、簡条書きとし、“～できる。”という表現とする。
- ・ 「⑤学習環境」は、この科目に必須のものとする。
- ・ 「ICT を活用した授業運営上の問題および課題」は、全体についての意見でもいい。

4 今後のスケジュール

- (1) 本日の意見交換の結果を持ち帰って、各委員がモデル案を修正して、ML で交換する（11月15日（月））。
- (2) 修正案について、意見を11月25日までに申し合う。
- (3) 最終案を ML に11月30日までに流す。